

平成27年度アドバイザー派遣事業実施レポート

- 1 団体名 外江・江府音読指導研究会
- 2 実施期日・場所 平成27年8月25日(火) 境港市立外江小学校
8月26日(水) 江府町立江府小学校
- 3 アドバイザー 石橋淑子先生(尼崎市「まねび学園」)

4 研修計画

- (1) 研修テーマ 児童の学習意欲を高め自尊感情を育む音読指導
- (2) ねらい

外江小・江府小の児童はそれぞれ素直で明るい反面、自分の思いを表現することが苦手である。そこで、音読に力を入れることで、まず表現することへの抵抗感をなくし、進んで表現できるように、さらに意欲的に表現できるようにしたいと考えた。それが主体的な学習態度へと発展し自尊感情を高めるものと考え、本テーマを設定した。

(3) 講師について

「いしばし式音読」の指導で有名な石橋淑子先生は、全国各地の学校に招かれ、直接指導にあたっておられる。外江小・江府小にはそれぞれ先生の指導を受けた職員がおり、両校とも昨年度、先生をお招きして指導を受けた経緯がある。アドバイザーには、外江小学校において音読指導の基礎基本を、江府小学校において発展的な指導をそれぞれお教えいただき、それを出発点に、両校の実態に応じてテーマに向けた取り組みを行いたいと考えた。

(4) 研修の実際

【外江小学校】

石橋先生の指導を受けるのは、昨年に続いて2回目であり、前回未経験の児童が指導を受けた。口形に気を付け言葉のリズムや響きを楽しみながら暗唱し音読することで、児童の表情は短時間で非常に豊かになり、声の質も高まったようであった。教師の研修では、古典や漢文の音読に挑戦した。はっきり、しっかり声を出すことにより、言葉のもつ響きの心地よさを感じ、夢中になって表現しようとしている自分に気づいた教員も多かった。「テンポとリズム」の大切さを改めて感じ、「まず自分が変わること」の必要性を実感できた研修であった。

研修後の感想より

- ★子どもたちが集中していて、その指導力に圧倒されました。何事も継続すること、チャレンジすることが大切だと思いました。2年目の今年の方が、音読指導の大切さを体で感じさせていただきました。
- ★どうやって声を出す指導をすればよいか悩んでいましたが、テンポよく姿勢を整えたり、初めに形を作ったりすれば、子どもたちもついて行けることがわかりました。
- ★空気を作ることの大切さを感じました。そして、パワーを注いで授業することで、子どもたちの集中力をぐっと高められるのだと感じ、教員の準備(心も教材も)の大切さを感じました。



外江小学校での授業

【江府小学校】

1・3・5年生の担任がはじめに音読指導を行い、次に石橋先生が1・2年合同、3・4年合同、5・6年合同の指導というように全校児童が音読の指導を受けることができた。石橋先生のテンポのある指示やタイミングのよい評価言によりどの学年の児童の声もみるみる変容していった。石橋先生の指導により児童の音読の声が一体感のある声になっていき、子どもたちの顔も笑顔になっていった。心が解放されたようだった。指導技能によって児童のこのような姿が導きだされたことにより、担任もがんばろうという気持ちが高まった。

音読の効果としては、多様な言葉を音にして表すことで豊かな言葉が身につく。自分の耳で確認しながら音読することで左右の脳が活性化し、思考力（左脳）と心（右脳）が育つ。名文にふれることを通して文章力や表現力が育っていく。指導の方法としては、反復・継続とテンポ・リズムがキーワードとなる。無駄な時間を作らないということも鉄則である。

職員の音読練習では、母音を短く言葉を粒だてて、メリハリのある音読ができ、楽しく実りのある時間となった。



江府小学校での授業

5 終わりに

両校は「海」と「山」というそれぞれの環境にあり、学校の規模も全く違う。しかし、同じような課題のある児童が学び、同じ研修を受けた職員があり、さらには同じ「江」の字の繋がりもあって、このような研修が実現した。今回の研修で学んだ多くのことを実践に生かし、また繋がりを大切にしながら、自分の思いをいきいきと語ることでできる児童の育成に努めたい。

折しも、台風15号が接近し、両校とも急な対応が必要となる中であったが、「列車が運休になる前に着かなければ」と、予定を繰り上げて来てくださった石橋先生の熱いお気持ちにより、無事研修を終えることができた。また鳥取県教育センターの所長様はじめ関係の方々には、さまざまな点でご高配を賜った。心より感謝を申し上げる。